

- A1 17歳
- A2 3時間
- A3 思わない
- A4 特になし
- A5 連絡手段と眠つぶし
- A6 写真の枚数がハンパない人
- A7 所持品の場所を覚えてくれる



- A1 12歳
- A2 5時間
- A3 思う
- A4 写真を撮ったら、すぐにSNSに載せてしまうから
- A5 気軽に遊べて仕事にも使える道具
- A6 スマホアプリだけで、プロ並みの写真加工をする人
- A7 特になし



- A1 14歳
- A2 6時間
- A3 思う
- A4 電池切れの際、連絡手段がないと不安になるので
- A5 連絡手段とパソコンの代用品
- A6 開発者ツールで自作アプリのデバッグ(コンパイルエラー)プログラムの誤りを探し、取り除く人
- A7 アプリのダウンロード量



# 特集01 スマホと、 九産大と、 ワタシ達。

身近で便利なスマホは、さまざまな機能がいっぱい。九産大でも、スマホを活用した新しい学びの成果が生まれています。まずは、九産大生に、普段のスマホとの付き合い方を教えてもらいました。

- Q1 何歳からスマホ(携帯電話)を持っていますか?
- Q2 1日に何時間くらい使っていますか?
- Q3 「私ってスマホ依存症?」って思う?
- Q4 その理由は?
- Q5 あなたにとってスマホとは?
- Q6 あなたの周りのスマホ上級者は?
- Q7 スマホでこんなことできたらいいな!

九産大生に  
きいてみました!



- A1 16歳
- A2 6時間
- A3 思う
- A4 空き時間について見ている、手放せない存在だから
- A5 なくてはならない存在です
- A6 写真をきれいに撮っている人
- A7 特になし



- A1 18歳
- A2 4時間
- A3 思わない
- A4 特になし
- A5 連絡手段の一つ
- A6 文字を打つスピードが速い人
- A7 正義のヒーローになれる機能



- A1 12歳
- A2 4時間
- A3 思う
- A4 スマホがないと落ち着かないし、不安
- A5 情報交換とゲームをするアイテム
- A6 自撮りがうまい人
- A7 特になし



- A1 14歳
- A2 10時間
- A3 思わない
- A4 人と遊ぶときには、見ないから
- A5 多くの人と交流できる便利な機械
- A6 写真をたくさん撮っている女友たち
- A7 テレビの録画機能

ITを活用したタウンバス利用状況調査用アプリが拡大中!

情報科学部の学生が、タブレットを活用したタウンバス利用状況調査用アプリを開発しました。福岡県芦屋町との連携から始まったこのプロジェクトは、今年で3年目。連携も3自治体に加え、学生たちは、アプリを各自治体仕様へ変更したり、使用感の改良などを行ったりしました。「アプリの開発よりも、タブレットを使い慣れていない乗客の方がどんな使い方をするのか想定しながら、デザインや使い勝手を考えることが難しかったですね」と木下さんたちは、苦労を語りました。



タブレット端末の画面

松村 翼作さん(左)  
情報科学部 情報科学科 4年(九産大付属九州産業高校)  
片山 翔太さん(中央)  
情報科学部 情報科学科 4年(九産大付属九州高校)  
木下 貴裕さん(右)  
情報科学部 情報科学科 4年(小郡高校)



バス車内に貼られたアプリの利用方法



乗客がアプリを使用している様子

スマホと連携した学びの紹介

スマホでつながる  
学びのステージ

九産大では、スマホのアプリ制作や作品制作など、スマホを使った学びが進んでいます。スマホで学びの可能性を広げている活動を一挙に紹介します!



こんなスマホケースがあったらいいな!  
世界で一つのスマホケースを  
デザイン・制作

芸術学部の学生が、オリジナルのスマホケースを制作しました。デザインに当たっては、いくつものプランから、先生の指導を仰ぎつつ、何度も修正して仕上げました。苦労しただけに、オリジナルデザインのスマホケースを手にしたときは感動! 奈須さんは、「スマホケースの決まったスペースに、ロゴを配置するのが難しかったですね」。富士さんは「デザインと製品の仕上がりの色が違ってしまい、製品化の難しさも実感できました」と振り返りました。

奈須 千比呂さん(左) 芸術学部 デザイン学科 2年(糸島高校)  
富士 美沙希さん(右) 芸術学部 デザイン学科 2年(宮崎学園高校)



スマホケースのデザインの発案



ケース完成品。奈須さん作(左)、富士さん作(右)

消費者調査を重ねて、  
マーケティングの視点から  
“売れる”LINEスタンプ開発に挑戦!

商学部の学生が、マーケティングの視点からLINEスタンプの開発に取り組みました。まず、アンケートやインタビューなど、消費者の嗜好調査からスタート。「みんなLINEを使っても、スタンプの購入までには至っていないなど、意外な傾向が見えてきて、興味深いです」と信原さん。調査結果をもとに、芸術学部の学生とも連携し、「購入してもらえるもの」を考慮して、デザインのやりとりを重ねました。12月ごろの完成を目指し、がんばっています。販売促進のプロモーション活動も行予定で。



山田 千咲さん(左) 商学部 商学科 2年(下松高校)  
信原 将秀さん(中央) 商学部 商学科 3年(八幡中央高校)  
島 万里子さん(右) 商学部 商学科 2年(折尾高校)



ミーティングの様子



調査のためのアンケートや企画書

フットワーク抜群!  
スマホならではの軽快さで、刑事コメディ作品を

芸術学部の学生が、スマホで撮影した映像作品を制作しました。撮影機材としてスマホを選んだのは、業界でもCM動画撮影にスマホが使用されていることからでした。制作したのは刑事もの。走りながら撮るシーンも、軽量のスマホならではの、軽いフットワークで順調に撮影を進めました。撮影を終えて、緒方さんは「みんながスマホを持っているので、手軽に撮影できるのが良いですね」。山口さんは、「クラウドを利用した映像の共有のしやすさなど、スマホの長所を再確認しました」と振り返りました。



作品は、1980年風の刑事もの。主役の柴田さんは「スマホは軽いので、追跡シーンも全力で走れました」。迫力ある映像に期待!



柴田 圭介さん(左)  
芸術学部 写真映像学科 3年(福工大附属城東高校)  
山口 巧さん(中央)  
芸術学部 写真映像学科 3年(豊浦高校)  
緒方 花也さん(右)  
芸術学部 写真映像学科 3年(玄洋高校)

文系だって、スマホアプリの開発OK!  
「九州アプリチャレンジキャラバンコンテスト」で  
最優秀絆賞を受賞(2014年)

経済学部と情報科学部の学生チームが、スマホのアプリ制作に挑戦しました。情報科学部の学生がプログラミングを行う一方、経済学部の3人の学生たちは、企画やプレゼンなどを担当。企画に当たって小林さんたちは、「絆」というテーマから「困っている人を助けるアプリ、使った人に喜んでもらえるアプリを作りたい」と考えました。そこで制作したのが、新入生が趣味などの共通の話題を通じて友人を作ることができるアプリです。「アプリを作る際、技術も大切ですが、誰にどのように使ってほしいかを考えた方が、みんなに使ってもらえる良いものができると感じました」と小林さんは話しました。

小林 雄太さん  
経済学部 経済学科 3年(自由ヶ丘高校)



新入生向けに制作したアプリ「IWAN ROOM」の利用画面



### 専門分野から見たスマホ活用法

スマホによって、誰でもメディアの受け手であると同時に、発信者になることができるようになりました。これからは、コンテンツ制作が大きな意味を持つてきます。クリエイティブの分野では、プロとアマチュアの境が曖昧になるかもしれません。以前ならプロ仕様だったソフトが、今ではスマホのアプリとして誰でも簡単に使用できます。それを使えば、スマホでプロレベルの作品を作ることもできます。学生であっても、その作品をネットにアップして、多くの人に承認されれば、プロと認められることも可能です。フリーターにとっては、大きな可能性を持ったツールです。

また、各個人の情報をオープンにすることに、新しい価値を共有、共創することも可能です。技術が進歩し、機能が拡大することで、スマホの可能性はさらに広がります。しかし、何でもできるということには怖いところもある、ということをお忘れなくください。さまざまなことができる反面、その裏には危険が潜んでいます。これから、スマホを賢く使うためには、情報を主体的に評価・識別する能力「メディア・リテラシー」が必要とされるでしょう。スマホを無条件に使用するのはなく、自制心を持ち、賢く利用することで、自分自身の可能性を広げてください。



岩崎達也教授 情報科学部 商学系

スマホは、世界へ発信できる可能性に満ちたツール  
メディア・リテラシー能力を身に付け、  
最大限に活用しよう！

### スマホトラブル対処法



幸地 英理子先生 学生相談室 常勤カウンセラー

SNSは公共性のあるものと心得て  
責任ある発言を心がけましょう

SNS(ソーシャルネットワーク)は、身近で便利、たくさんの人とつながることができるサービスです。しかし、身近な分、トラブルに発展しやすいことも理解して活用しましょう。SNS上の発言は、友だち同士のやりとりであっても、どこからでも見られる公共性のあるものです。同じ文面でも、捉え方は人それぞれ。自分の意図とは異なる受け止め方をされ、トラブルになることも。逆に、送った後で、自分の文章で相手を怒らせたのではないかと悩む人もいます。発信する前に、誰に見られても大丈夫な文章か、見直すことが大切です。トラブルになった場合、ネットだけの友人とはなかなか誤解を解消できず、悩みが深まりがちです。また、

最近では日頃顔を合わせていてもSNS上の誤解から気まずくなる傾向もよく見られます。「困ったな」と思ったら、一人で抱え込まず、周りの信頼できる人に相談してください。もちろん、学生相談室でも、いつでも相談に応じますよ。また、リツイートや「いいね」が少ないと、無視されているのでは、嫌われているのでは、と不安になる人もいます。SNSとの付き合い方はそれぞれ。熱心に反応を返す人もいれば、見るだけで済ませる人もいます。このような考え方が、うまくSNSを楽しむコツになるかもしれません。スマホは楽しいツールですが、時にはスマホを忘れて、何かに熱中したり、心地よく過ごす時間を取るように意識するといいですね。

# スマホ発信、未来のステーション

キャンパスをより楽しく便利に、そして学びやすい環境にするアプリが九産大から次々に生まれています。最新の学びの成果を紹介します！

授業のアンケートを簡単にしたり、  
今までできなかった自宅学習を可能にしたり、  
スマホで学びをパワーアップ！



スマホでKERNEL計算機を使う山崎さん



楽しく動くイラストなどを盛り込んだアンケート画面



実際のKERNEL計算機(左)と山崎さんが作ったアプリを使用したタブレットの自宅学習用計算機(右)

「大変でしたが、たくさんの方に役立つアプリを作れたので良かったです。今後、このシステムがもっと使いやすいようになるよう機能拡張を目指したいと思います」と話しました。

情報科学部の山崎さんは、3年生の後期から、2つのアプリ開発に取り組みました。その一つは、タブレットなどを使って、英語の教材を評価するアンケートシステムです。山崎さんが工夫したのは、タブレットやスマホならではの画面の楽しさ。回答に応じて、イラストが動くなど、回答者を楽しませる工夫を盛り込みました。このアプリは、高校生にオープンキャンパスのアンケートを取るのに活用しました。もう一つは、情報科学部の授業で使用する「KERNEL」という専門的な計算機での学習を、スマホ上で行うシステムです。この計算機は、アタリシユケースほどの大きさで重いため、持ち運びにくく、自宅学習が難しいという問題点がありました。このシステムを使えば、スマホで実機と同じ学習ができるので、自宅学習も可能になりました。

山崎 あおいさん  
情報科学部 情報科学系 4年 元産高専校



自分たちで開発したポイント表示システムを指す藤野さん(左)と前道さん(右)



学生証をかざしてポイントを貯めている様子



さらに新しいアプリを開発したい！

前道さんと藤野さんは、女子学生支援室「くすぐるくむ」から依頼を受け、スマホを使った、来室回数に応じたポイントの表示システム開発に取り組みました。「くすぐるくむ」の入口に設置したスマホに、学生証をかざすと、隣のタブレットに画像とともにポイントが表示。ポイントがアップすることに画像も変わる遊び心のあるアプリです。プログラム自体は、そんなに難易度の高いものではありませんでした。むしろ、操作の簡易化の方に苦労しましたと藤野さん。できるだけ利用者が操作をしなくて済むよう工夫し、学生証をかざすだけで済むようにするなど、改良を重ねました。藤野さんは「みんなに使ってもらえるアプリを作れて良かったです。今後は、スマホと何かを組み合わせて暮らしをより便利にするようなアプリを作りたいですね」。前道さんは「陸上部に所属していますが、スマホと陸上を組み合わせたアプリを開発したいと思います」と、今後の抱負を話しました。

前道 瑞貴さん  
情報科学部 情報科学系 4年 元産高専校

藤野 慶汰さん  
情報科学部 情報科学系 4年 元産高専校



女子学生支援室「くすぐるくむ」の来室ポイントを  
学生証をかざすだけでチェックできる、  
楽しいシステムを開発